

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 6月 5日

【評価実施概要】

事業所番号	2272300738
法人名	医療法人財団百葉の会
事業所名	グループホームわたしの家
所在地 (電話番号)	〒417-0801 静岡県富士市大淵352-2 TEL 0545-37-2111 FAX 0545-37-2115
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年4月14日

【情報提供票より】(平成20年3月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 11 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	18 人 常勤 8 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 3.7人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造	造り
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	36,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(360,000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4) 利用者の概要(平成20年 3月 24日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1		名	要介護2	3	名
要介護3	8	名	要介護4	4	名
要介護5	3	名	要支援2		名
年齢	平均 83.6 歳	最低	74 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	湖山病院、志田歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

富士山麓に立地するホームは環境的に恵まれている。また、近隣にはグループ本体の総合病院(湖山病院)が併設され、医療面においても利用者・家族にとっても安心できるグループホームといえる。利用者の社会性を重視し、併設の施設を利用した地域住民との交流が盛んに行われ、運営理念である「ゆったり、のんびり、自分らしく」を法人、管理者、職員全員が協働して実践している。これは、職員の質的向上を図るべく研修等の充実と改善意欲に裏打ちされたものといえる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価における課題は、改善計画に沿って改善されている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の実施に当たっては、各フロアの主任を中心に話し合いを行って課題の改善に取り組んでいるが、非常勤職員(パート)は話し合いの中には参加していないが、職員同様に評価の意義を理解させることが望まれる。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回の割りで、第3火曜日の午後に開催されており、会議で出された意見等については日々のケアサービスに活かされている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 年3回開催の家族会や、運営推進会議における家族代表の意見、訪問時における聴き取り等によって家族等の意見を運営に反映している。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) グループホーム本体の湖山病院で行われる「ふれあい交流室」の小学生の宿泊体験学習や行事等に参加したり、町内会の夏祭り、行事等にも積極的に参加し地域との交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の社会性を重視し、地域の方々並びに併設の施設を利用されている方々との交流を図り、利用者が住みなれた地域の一員であることを認識できるよう、地域密着型の理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り時には、利用者の状態やケアサービスについて申し合わせており、日常生活の中においても言葉かけ、態度は共通したものが見られ、日々の記録も理念に沿った取り組みが見られる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	グループホーム本体の湖山病院で行われる「ふれあい交流室」の小学生の宿泊体験学習や行事等に参加したり、町内会の夏祭り、行事等にも積極的に参加し地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の実施に当たっては、各フロアの主任を中心に話し合いを行って課題の改善に取り組んでいるが、非常勤職員(パート)は話し合いの中には参加していない。	○	職員同様、非常勤職員にも評価の意義を理解させることが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回の割りで、第3火曜日の午後開催されており、会議で出された意見等については日々のケアサービスに活かされている。		

静岡県 グループホームわたしの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月ごとに開かれる市主催の業務連絡会に出席したり、市役所に出かけたりした際、市との情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月定期的に請求書や預り金記録シートを送付する際、日々の暮らしぶり等を一筆箋により報告している。また、家族等の訪問時においても詳しく日々の状況、健康などを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年3回開催の家族会や、運営推進会議における家族代表の意見、訪問時における聴き取り等によって家族等の意見を運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動・交替によるリスクを出来るだけ少なくするため、引継ぎ期間を1ヶ月程度設ける等、利用者との関係をスムーズにする配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成とサービスの質の向上に各種研修参加には積極的に支援しているほか、職員が講師になって毎月1回勉強会を開催する等して質的向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加入し、交換実習や情報の交換を行って事業運営に役立たせている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族によるホームの見学には細部にわたり話し合った後、利用者本人にホームの日常生活の雰囲気を感じ取ってもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴や経験則に照らした関係づくりに配慮し、炊事、料理の味付け、洗濯物の伸ばし方に至るまで教を請ったり、また、お互いに励ましあう場面も見られた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常生活の関わりの中、利用者それぞれに合わせた問いかけを心掛け、利用者の望みや思いを汲み取る支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の状態変化や重点項目について赤字で記録し、利用者に必要な支援・課題について職員全員で話し合っている。職員の気づきや意見を取り入れ介護計画を立案、家族の意見や要望を確認して作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度家族や本人と話し合い、実情に合ったケアが出来るよう見直しをしている。利用者の状況が変化した場合家族と相談し、臨機応変に見直しを行なっている。		

静岡県 グループホームわたしの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族との外出・外泊が自由に行われている他、家族がホームで食事をしたり居室に宿泊したりすることも出来る。本人や家族のその時々々の要望に応じ、家族との暮らしを守る柔軟な支援が行われている。また、湖山病院への職員による通院介助も行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望によりかかりつけ医が選択できる。事業所の協力医院湖山病院のバックアップが有り、湖山病院の医師による定期受診や往診・看護師による訪問看護など、体調変化にも即座に対応できる体制が整えられ、家族の安心に繋がっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医と家族の面談に付き添い、状況の変化に応じた対応について話し合いを重ねている。湖山病院相談室とも連携し、医療関係者・家族と協力して利用者にとっての最良の対応を考え支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーや守秘義務についての話し合い・研修を重ね、一人ひとりのプライドを尊重した話しかけや対応に努めている。記録を人目につかないところで記入するなど、個人情報の保管・取り扱いに留意しているが、面会簿も記録と位置づけプライバシー確保を図りたい。	○	面会記録も注意すべき個人情報のひとつと捉え、プライバシー保護に配慮したより一層の取り組みが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先することなく、利用者のペースを大事にしたケアをしている。食事中に「時間はあるからね、ゆっくりでいいからね」と声を掛ける職員の姿が見られた。散歩や外出など利用者のしたい事を把握し柔軟に対応している。		

静岡県 グループホームわたしの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者の好みを聞きながら献立を考え、一緒に買い物をし、畑で育てた旬の食材を活かした食事作りをしている。調理・盛り付け・片付け等も利用者と共にしない、職員と利用者が同じテーブルで会話を楽しみながら食事をしている。外出先での食事や、庭での食事利用者の楽しみになっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2日程度入浴介助を行っているが、利用者の希望により毎日入浴することも出来る。職員は利用者の体調に配慮しながら入浴支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は生活歴や家族からのアセスメントにより、一人ひとりに合わせた役割・楽しみ事を支援している。食事・掃除・畑仕事など、利用者それぞれが好きな事や得意な事を役割とし、経験や力量に合わせた活動をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事予定を作り、季節の花見・ドライブ・祭り見学・外食・買い物など、利用者の健康状態や天候に配慮しながら外出している。利用者一人ひとりに希望を聞き1ヶ月に1度以上は本人の希望に沿った外出を計画するなど、外出機会を増やす取り組みをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りにより鍵をかけない生活を実践している。外出傾向のある利用者には玄関に鈴をつけて対応し、居場所確認などにより安全面に留意しながら自由な生活が出来るように配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練を行い、利用者と共に避難経路の確認をしている。湖山病院との協力体制が築かれており、非常用の備品や人員面において支援が得られる。		

静岡県 グループホームわたしの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎週栄養士が献立をチェックし、バランスの良い食事になっている。職員は食事量・水分量を記録し、総摂取量を把握している。刻み食やミキサー食・ゼリー食など利用者ごとの状態に合わせた対応をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは明るく落ち着いた造りになっており、利用者は食卓テーブルやソファー・和室など思い思いの場所で過ごすことができる。廊下には椅子が置かれ、利用者同士で雑談をして過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの家具や日用品が持ち込まれ、居心地よく生活できるよう配慮されている。利用者は家族の写真や趣味の物を飾り、その人らしい居室づくりをしている。毎日の清掃のほか職員が曜日を決めて重点清掃を行なっているが、より頻繁な清掃を望む家族の声が聞かれた。	○	毎日の清掃時、利用者の力量に応じて職員が見守りや介助を行ない、清潔が保たれているかを確認する取り組みが望まれる。